

ご存知ですか？ 8月23日は 油の日

京都の大山崎に離宮八幡宮という神宮があります。
全国の油脂業関係者が昔から祈願に参拝する有名な
油の神様なのです。

今から遡ること千年以上前、清和天皇の代、貞観元年(859年)8月23日、九州にあった離宮八幡宮が京都の大山崎に鎮座(遷宮)されました。この神社で長木(ながき)という道具が発明され、日本ではじめて搾油が行われたのです。



さて、何の油が搾られたのでしょうか？
それは…荳胡麻(えごま)の種子。

荳胡麻といっても、胡麻ではなくシソ科の植物です。
韓国料理店で焼肉を包むのに出てくるシソより一回り大きな葉っぱを見たことはありませんか？ 葉のキムチもおいしいんですよ。この荳胡麻、東南アジアの原産とされ、日本には中国・朝鮮半島を経て入って来たようです。古くから食用とされてきました。「え」「しろじそ」「じゅうねん」とも呼ばれます。

近年では荳胡麻油に多く含まれる成分 α -リノレン酸の研究も進み、健康に良い優れた食用油として需要が高まっているこの油ですが、乾性油の特質をいかして、油紙や木工用塗料、インクなどの工業用としても人々の生活を支えてきました。(食用は工業用と区別し、「しそ油」の名称で販売されていましたが、今は原材料名に統一となりました)

でも元々、離宮八幡宮で搾油を始めた当初は燈明用でした。

神社の燈明用として奉納、また宮中にも献上され、やがて朝廷より、「油祖」の名を賜った離宮八幡宮は、油の製造と販売を一手に担う「油座」として栄えたのです。

というわけで、8月23日は、

日本の搾油が始まった記念すべき日なのです。

是非 8月23日を、「油の日」として覚えてください！

油記念日も今年で7周年を迎えました。

油問屋から始まった当カネタグループは、108年目を迎えたばかりですが、この油の日を皆様にご存知いただけるようこれからも微力ながらイベント活動を行って行きたいと考えております。

貴重品だった油が、日常品となった今こそ、日頃お使いの油について、ちょっぴり考えてみるきっかけになれば嬉しいのです。

油の歴史や種類、健康への役割、知られているようで誤解されがちな油について、正しい情報を今後もどんどん発信して参ります。

8月23日(木)、 25日(土)は 浅草橋 金田油店へ！

イベント情報



2012年の油の日23日は木曜日。

当日は油が当たる大抽選会、直後の土曜日25日は抽選会に加え各種無料イベントを行います！

みなさまお誘いあわせの上、お気軽にご来店ください。